

2010年 (1984)

2010

メディア 映画

ジャンル SF アドベンチャー

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 113分

初公開日 1985/03/16

公開情報 MGM/UA=CIC

【キャッチコピー】

いま、なにか素晴らしい事が起きようとしている。

【解説】

今や映画史上の傑作となってしまった「2001年宇宙の旅」の続編という、あまりにも畏れ多いプロジェクトに敢然と挑戦したのは、「カプリコン・1」や「アウトランド」といったSF作品も手掛けているP・ハイアムズ。なんと監督のみならず脚本・撮影・製作まで担当し、男の気概と意地を見せつける。前作で未解決だったモノリスの正体や、ディスカバリー号のその後に決着をつけるべく、アメリカ人科学者らを乗せたソ連の宇宙船レオーノフ号が木星へ向けて旅立った。前作にも登場していたフロイド博士が主人公となり（役者はウィリアム・シルヴェスターからR・シャイダーに交代）、彼が目撃するボウマン船長（前作同様K・デュリア）の幻影を交えながら、大宇宙の深遠で起ころうとしている奇跡が描き出される。もはや“映画”のワクすら超えた感のある「2001年宇宙の旅」と比較するのは野暮、これは前作にインスパイアされた番外編なのだ。監督に全てを一任したクラーク、それに応えたハイアムズ、考えるだに恐ろしいプレッシャーの中、本格的な宇宙SFドラマを構築しえたハイアムズの力量こそを見よ！ レオーノフ号とディスカバリー号の間に渡されたブリッジのシーンにおける、足元に広がる宇宙空間の無限の広がり、ディスカバリーに到着しヘルメットを脱ぐ瞬間の恐怖と、思わず船内の臭いをかぐ仕草など、前作では稀薄だった“宇宙における人のリアクション”を重視したディテールなど、これこそ宇宙SFドラマの真骨頂であろう。劇中、ボウマンがフロイドに語る“何か素晴らしい事が起ころうとしている”というメッセージは、この作品の完成そのものを暗示していたような気さえるのだ。

【クレジット】

監督	ピーター・ハイアムズ	Peter Hyams
製作	ピーター・ハイアムズ	Peter Hyams
原作	アーサー・C・クラーク	Arthur C. Clarke
脚本	ピーター・ハイアムズ	Peter Hyams
デザイン ワーク	シド・ミード	Syd Mead
撮影	ピーター・ハイアムズ	Peter Hyams
特撮監修	リチャード・エドランド	Richard Edlund
プロダク ションデ ザイン	アルバート・ブレナー	Albert Brenner
編集	ミア・ゴールドマン	Mia Goldman
	ジェームズ・ミッチェル	James Mitchell
音楽	デヴィッド・シャイア	David Shire

出演	ロイ・シャイダー	Roy Scheider	ヘイウッド・R・フロイド博士
	ジョン・リスゴー	John Lithgow	ウォルター・カーノウ博士
	ヘレン・ミレン	Helen Mirren	ターニャ・カーバック船長
	ボブ・バラバン	Bob Balaban	R・チャンドラ博士
	ケア・デュリア	Keir Dullea	デイヴ・ボウマン船長
	ダナ・エルカー	Dana Elcar	ディミトリ・モイセヴィッチ
	マドリン・スミス	Madolyn Smith	キャロライン・フロイド
	ジェームズ・マクイーチン	James McEachin	ヴィクター・ミルソン
	メアリー・ジョー・デシャネル	Mary Jo Deschanel	ベティ（ボーマンの妻）
	エリヤ・バスキン	Elya Baskin	マキシム・ブライロフスキー
	サヴェリ・クラマロフ	Savely Kramarov	ウラジミール・ルデンコ
	オレグ・ラドニック	Oleg Rudnik	ワシリー・オルロフ博士
	ナターシャ・シュネイデル	Natasha Shneiuder	イリーナ・ヤクニーナ
	タリセン・ジャフィー	Taliesin Jaffe	クリストファー・フロイド
	ウラジミール・スコマロフスキー	Vladimir Skomarovsky	ユーリ・スヴェトラノフ
	ヴィクトル・シュタインバッハ	Victor Steinbach	ミコライ・テルノフスキー
	ジャン・トリスカ	Jan Triska	アレクサンダー・コワレフ
	ラリー・キャロル	Larri Carroll	アンカーマン
	ハータ・ウェア	Herta Ware	ボウマンの母
		アーサー・C・クラーク	Arthur C. Clarke
声の出演	ダグラス・レイン	Douglas Rain	HAL 9000の声
	オルガ・マルスネード	Olga Mallsnerd	SAL 9000の声

(ノ
ンク
レジッ
ト)